

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア
マンスリー・レポート



ブラジル



南アフリカ



メキシコ



オーストラリア



トルコ



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは景気回復の遅れ、追加利下げなどから軟調に推移～
 ブラジルでは製造業に加えて好調を維持していた個人消費も下向きになるなど依然鈍化が続いています。政策金利は0.5%引き下げられ、8.0%となりました。ブラジル・レアルは追加利下げ観測、中国景気の減速などを受け弱含み横ばいとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは反発材料少なく上値も限定的か～
 景気については、これまでの自国通貨安による輸出拡大や利下げ効果が今後期待されること、資源の主要輸出先である中国で景気刺激策が継続的に実施されていること、米国でも追加金融緩和の可能性が高まりつつあることに加え、欧州問題へのEU等の対策、議論が進展しており同問題への懸念がやや後退していることなどから、景気の底打ちは近いとみています。インフレ率も同国中央銀行の目標レンジ(4.5%±2.0%)内で推移していることから追加利下げも可能な状況にあるとみられます。ブラジル・レアルは、欧州問題や投資家のリスク回避的な動きが後退していますが、追加金融緩和なども予想され、しばらくは調整が続くとみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは欧州問題への懸念後退などから上昇～
 メキシコでは製造業、個人消費とも堅調を維持しています。同国では大統領および総選挙が行われました。大統領選ではエネルギー、税制等改革、治安問題重視への政策転換を訴える野党大統領候補が得票率で首位、再集計後も同結果となったことから株価は大幅に上昇しました。メキシコ・ペソは欧州問題への懸念の後退、原油価格の反発などもあり上昇しました。政策金利は据え置かれています。

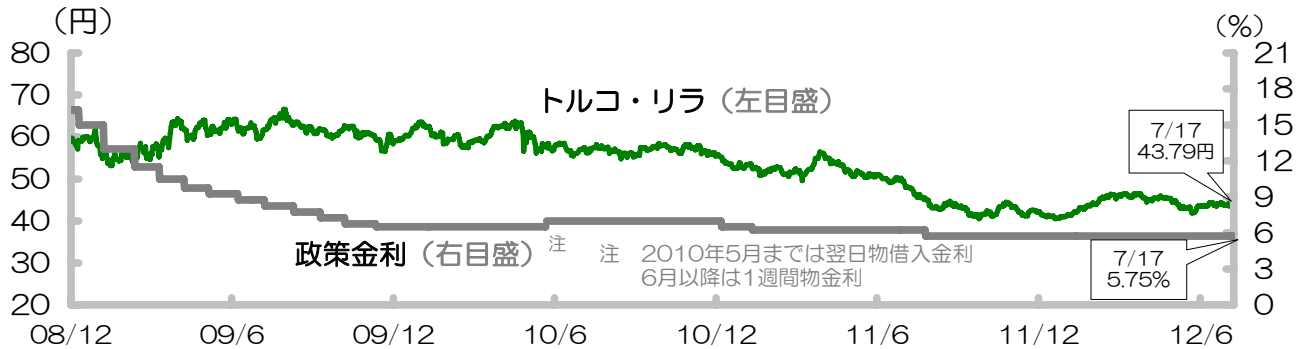
【当面の金利・為替の見通し】～メキシコ・ペソは良好な国内景気から底堅い動きか～
 景気については、鉱工業・製造関連の指標も底堅く推移しており、緩やかな拡大基調にあるとみられます。同国経済への影響の大きい原油価格についても足下では反発しています。ただ米国の雇用回復が予想よりも遅れており海外就労者の送金に対する影響や欧州景気の後退が不安材料となっています。メキシコ・ペソは、良好な国内景気に加え、このところ国外の自動車会社による同国での設備投資の増額計画などが発表されていることも好材料になるとみられ、底堅い動きを予想しています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは欧州問題への懸念の後退、金融引き締め調節などから強含み～

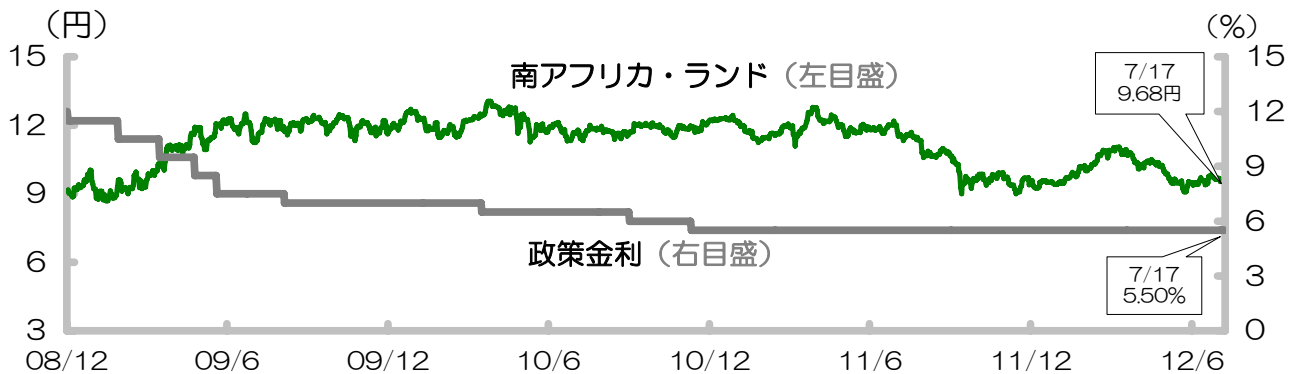
トルコでは1～3月期の実質GDPが前期比でマイナスとなり、前年比でも+2.4%(季調済)と減速しています。米国大手格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスはトルコ国債の格付を「Ba2」(BB格に相当)から「Ba1」(同BB+)に引き上げたことを発表しました。政策金利は据え置かれました。トルコ・リラは欧州問題への懸念が後退したこと、当局の金融引き締め調節姿勢などからレンジ内で強含みに推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは景気動向、金融調節などから底堅い動きか～

景気については、1～3月には減速感が強まりましたが、製造業の景気指標が上向き、個人消費が堅調であることから再び緩やかな拡大基調に戻るとみられます。欧州景気悪化を受けた輸出の減少、通貨安による外国資本の流入減少が懸念されますが、中央銀行は通貨安対策やインフレ警戒のため、引き締め調節を継続するとみられます。緊張が高まっていたシリアとは同国大統領が謝罪表明を行ったことから緊張緩和に向かうと思われまます。トルコ・リラは今後の景気動向や中央銀行の金融調節から底堅い動きになるとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは欧州問題への懸念の後退から上昇した後、小反落～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、スペインの銀行に対する金融支援が決定したことなどを受けて、投資家のリスク回避姿勢が緩和したことから上昇しました。その後は、米国の雇用統計が市場予想を下回る内容となり投資家のリスク回避姿勢が強まったことや金など貴金属相場がレンジ内で弱含んだこともあり、小反落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内で底堅く推移か～

景気については、製造業生産高は前月を上回る伸びがみられましたが、PMIが50を下回ったことから、当面は鈍化する可能性があります。消費者物価指数は同国の目標インフレ率の上限(6%)を下回りました。同国準備銀行は当面は政策金利を据え置くこととみられますが、今後の景気に対して慎重な見通しを示していることから、将来的には政策金利を引き下げる可能性があると考えられます。南アフリカ・ランドは、欧州問題に対する懸念が残りますが、同国国債への投資家の需要が下支えとなり、レンジ内で底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは欧州問題への懸念後退、利下げ見送りなどから上昇～
 オーストラリアでは、個人消費や住宅建設関連が好調だった一方で雇用が悪化したことなど、景気指標に強弱のばらつきがみられました。政策金利は据え置かれています。オーストラリア・ドルは欧州問題への懸念の後退、利下げ見送り、資源価格の下げ止まりなどから上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは金利水準、中国の景気対策への期待などからじり高か～
 景気については高水準を維持する資源開発投資などの好調な部分がある一方、先行きの不透明感を示す企業景況感など、強弱が混在する状況にあります。金融政策については同会合議事録では、これまで緩和策を実施していることや国内景気が予想以上に堅調なことなどから、現状維持の姿勢がうかがわれました。オーストラリアでは7月より炭素価格制度(炭素税)、鉍物資源利用税(資源税)の2種類の環境税が導入されました。今後消費者物価や企業活動への影響が注視されます。オーストラリア・ドルは相対的に高金利であること、景気減速が懸念される中国での景気対策への期待や資源価格の反発期待などからじり高で推移するとみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは底堅い動き～
 ニュージーランドでは、1～3月期の実質GDP成長率が前期比+1.1%となり、市場予想を大幅に上回りました。食品加工などの製造業や酪農などの寄与度が高まりました。また4～6月期の消費者物価指数(前年比)は+1.0%となり、前年比では1999年10～12月期以来の低水準となりました。ニュージーランド・ドルは、GDPが市場予想を上回ったこと、商品市況の反転、スペインの銀行に対する支援策の進展などから、底堅く推移しました。

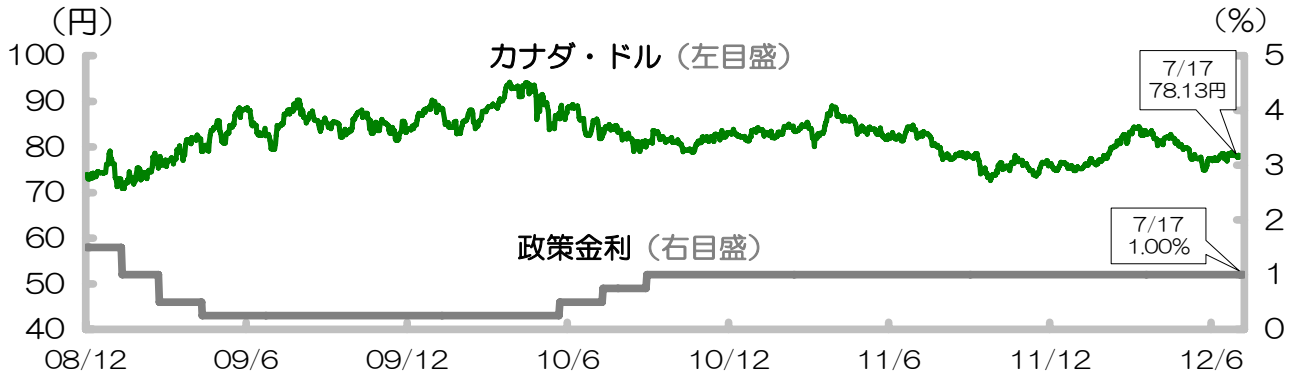
【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは、世界的な金融緩和の流れから底堅く推移か～
 景気については、低金利を背景とした堅調な住宅需要やクライストチャーチでの大地震からの復興需要が期待される一方で、足下では貿易相手国である欧州や中国の景気減速などを背景に企業景況感が悪化している点が懸念されます。政策金利はインフレ圧力の落ち着きから、当面据え置かれるとみています。ニュージーランド・ドルは、欧州問題への懸念は残りますが、復興需要の本格化などによる底堅い国内景気、世界的な金融緩和の動き、他の先進国と比べた金利水準の高さなどから、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは原油価格の上昇などを受けて底堅く推移～

カナダでは、4月の実質GDPが前期比+0.3%となりました。原油などの資源部門の回復が大きく寄与しましたが、それ以外の部門の伸びはやや弱い結果となりました。5月の消費者物価指数(前年比)は+1.2%となり、インフレ圧力が大幅に緩和されたことが確認されました。カナダ・ドルは、米国の景気減速懸念がマイナス材料となった一方で、堅調な原油価格やスペインの銀行に対する支援策の進展などから底堅く推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国や中国の景気下支えへの期待から底堅く推移か～

景気については、外部環境の悪化の影響が懸念されるものの、堅調な住宅市場をはじめ、中央銀行の業況調査では企業の売上や雇用に対する良好な予想がみられたこともあり、回復を続けるとみられます。政策金利については、インフレ圧力の落ち着きや、外部環境の先行き不透明感もあり、当面は据え置かれるとみています。カナダ・ドルは、米国の景気減速に対する懸念が残りますが、米国の追加金融緩和や中国の景気対策などによる景気下支えへの期待も強いことから、底堅く推移するとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは欧州問題への懸念の後退から上昇した後、軟調に推移～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、スペインの銀行に対する金融支援が決定したことや、ギリシャ再選挙の結果を受けてユーロ圏離脱に対する懸念が後退したことから、ユーロに連動し上昇しました。その後は、ECBが発表した金融緩和策に対する失望や米国の雇用統計が市場予想を下回る内容となり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、軟調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネは底堅く推移か～

景気については、小売売上高が市場予想を上回りましたが、PMIが市場予想に反して50を下回り、鉱工業生産の伸びが鈍化するなど、欧州景気悪化の影響による減速がみられます。同国中央銀行は、当面は現行の政策金利を維持しつつ、国内景気に加えてユーロに対し強含みで推移する為替動向を注視するとみられます。ノルウェー・クローネは、欧州債務問題の動向が懸念されますが、同国の緩やかな景気回復基調や財政・経常収支が黒字と健全であることなどから、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



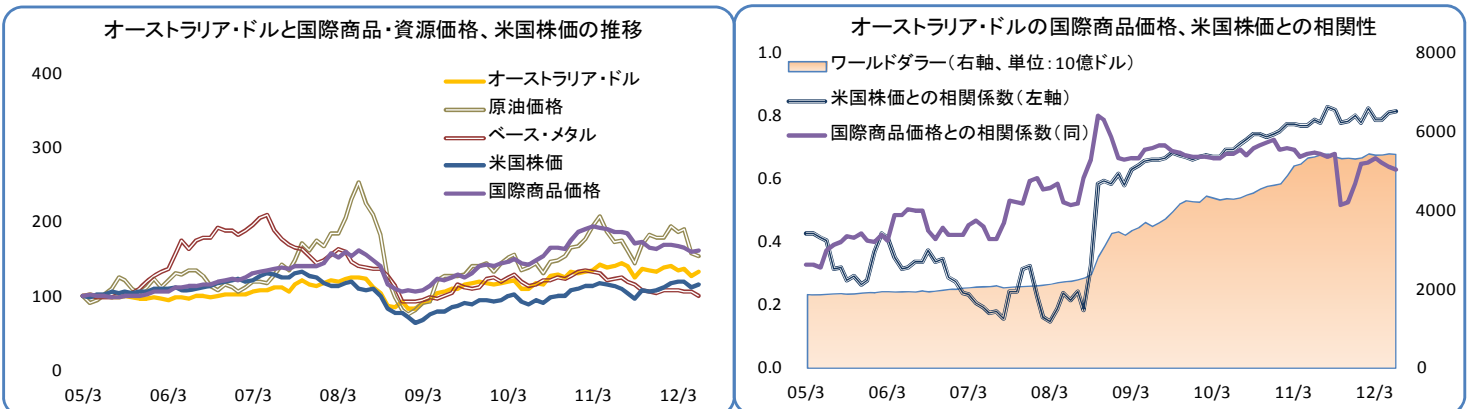
【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは、ファンダメンタルズの悪化からやや弱含み ～
 インドネシアでは、消費者物価指数(前年比)が+4.53%と市場予想を上回り、インフレは小幅に加速しました。輸入が大幅に増加したこと、消費者信頼感指数が燃料価格引き上げの先送りなどを受けて持ち直したことなど、内需の堅調さが確認されました。政策金利については、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題など海外情勢の動向を受けてレンジ内の推移となりましたが、投資家のリスク回避の動きや、貿易収支が予想外の2か月連続で赤字になったことなどもあり、やや弱含む展開となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは、懸念材料が残るも下値は限定的か ～
 景気については、国内の個人消費や投資などの内需を中心に今後も堅調に推移するとみられます。貿易相手国の景気減速の影響などを受けて輸出が停滞していることもあり、中央銀行は2012年の経済成長予測を若干引き下げました。政策金利については、インフレや通貨安に対する懸念が残ることから据え置かれるとみています。インドネシア・ルピアは、海外資本の流出や貿易赤字の拡大による経常収支の悪化が懸念されますが、堅調な国内景気や中央銀行の自国通貨下支えへの期待もあり、下値は限定的とみられます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

今月のピックアップ

【近年のオーストラリア・ドルの傾向】



※1…オーストラリア・ドル: 対米ドル為替レート、原油価格: WTI期近物、ベース・メタル(アルミ、銅など): RBA商品価格指数(Base Metals)、米国株価: S&P500指数、国際商品価格: ロイター/ジェフリーズCRB指数の各月末データを対象に、左グラフは2005年3月末を100として指数化したもの。右グラフの相関係数は、これらのうちオーストラリア・ドルと米国株価および国際商品価格について各月末時点における過去36か月分のデータをもとに計算。相関係数は-1~1の間の値をとり、1に近づくほど相関性は高い
 ※2…ワールドダラー: FRBが米国内に供給するベースマネーと、米国を除く各国の中央銀行などが外貨準備として保有する米ドルの合計で、世界の過剰流動性を示すとされる
 ※3…データ出所: Bloomberg、RBA

オーストラリア・ドルは、資源価格とほぼ同じように動くことから資源国通貨とされています。また、投資家のリスク許容度を反映すると考えられる米国株価の動きとの相関性をみてみると、リーマンショック後に高まった後、近年でも引き続き高まる傾向にあることから、国際的な投資資金の流れに影響を受けやすくなっていると考えられます。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。